

岩木山を考える会
2017年度総会議案書
(確定版)



花田一雄氏 撮影

日時：2017年4月2日（日） 13：30～
場所：弘前市民参画センター

2017年度岩木山を考える会総会次第

日 時 : 4月2日(日)13:30~15:30

場 所 : 弘前市民参画センター

次 第 :

- 13:30 司会による開会宣言
 会長(代行)あいさつ
 議長選出
- 13:40 議事
- 第1号議案 2016年度活動のまとめ
- 第2号議案 2016年度収支決算報告
 会計監査報告
- 第3号議案 2017年度活動方針(案)
- 第4号議案 2017年度予算(案)
- 第5号議案 役員体制(案)
- 14:30 質疑応答・意見交換
- 15:25 議案採択
- 15:30 閉会宣言

お疲れ様でした。お気をつけてお帰り下さい。

第1号議案 2016年度活動のまとめ

1. 岩木山をめぐる情報・活動報告

<3月>

- ・ 3/20 弥生いこいの広場から弥生登山道4合目まで歩いてきた。新たな登山道をつけるためには何回か足を運んでコースを定める必要があると感じた。(竹浪)

<4月>

- ・ 4/1 弥生いこいの広場から4合目付近まで三角形に歩いてきた。サルを2匹観察した。(齋藤)
- ・ 4/2 赤倉登山道を26番観音付近まで歩いてきた。崖の崩落の様子は見られなかった。スノーモービルの走行跡はなかった。(竹浪)
- ・ 4/24 柴柄沢、平沢に入った。平沢の伏流水の源頭を確認してきた。沢に灌木がずいぶん茂ってきた。(齋藤)

<5月>

- ・ 5/7 小白沢に入ったが、今年はまだ雪がない。エゾリュウキンカも例年より相当早く咲きトウが立っていた。水芭蕉も終わっていた。岩木山の北西麓から雪形を眺めたが、形が崩れるのが早い。赤石川の河口方面から岩木山を見ると、ゴリラの形の雪形がみられる。(花田)
- ・ 5/14 赤倉1300m付近まで登った。雪があつたりなかつたりして歩きにくかった。(齋藤)
- ・ 5/23 弥生登山道1300mほどまで姥石を越え大岩付近まで登った。2.5合目付近まで刈り払いがされていた。(齋藤)
- ・ 5/26 ミチノクコザクラやコメバツガザクラを撮りにスカイラインから登り種蒔苗代へ行った。(花田)
- ・ 5/28 赤倉登山道9番観音の傾きが修復されていた。26番観音の道路から2mほどの先が崖になっている。崩壊が進んでいる。虎ロープを張っていた。大開の付近も1m足らずしか余裕がないところがある。キレットがガラガラ崩壊していた。(花田)

<6月>

- ・ 6/11 赤倉登山道をキレットまで登ってきた。26番観音付近の写真撮影してきた。情報を市役所観光政策課に提供した。環境政策課では津軽森林管理署に情報を提供したとのこと。(竹浪)
- ・ 6/23 ススキ刈り払い作業後、阿部と竹浪でスカイライン経由で山頂トイレの調査に行ってきた。大きなハエが飛んでいた。種を同定するために捕獲してきた。去年見られた殺虫剤のようなものは撤去されていた。(竹浪)
- ・ 6/23大館鳳鳴小屋の扉やベッドの修繕が行われていた。扉から雪が入らないような措置がされていたが、手をかける部分が貧弱で厳冬期に開けられるかどうか疑問。壁と引き戸の隙間からは相変わらず雪は侵入するものと思われる。(竹浪)
- ・ 嶽登山道の標識が倒れていたの、臨時に標識をつけてきた。(工藤)
- ・ スノーモービルの禁止標識が、鱒ヶ沢スキー場ゴンドラ休憩所に貼ってあるが、それ以外見当たらず。(花田)

<7月>

- ・ 7/23 弥生の新コースから山頂まで歩き、大鳴沢源頭の高山植物を観察した。1.7kmの新道はきっちりしていて道路も広い。6合目から竹藪が濃くなり、かき分けて歩いているうちに手を切ってしまった。弥生いこいの広場の駐車場は開門時間があるので注意書きが必要だ。(花田)

<8月>

- ・ 弥生登山道2合目の道標がクマにかじられていた。(齋藤)
- ・ 8/11 工藤幹事が山の日で弥生登山道新コースを登ったら、5合目付近でクマに出会ったとのこと。(花田)

田)

<9月>

- ・ 9/4 弥生登山道7合目ちょっとあたりまでのぼった。人があまり来ないのでクマも出てくるのかな。(藤原)
- ・ 9/10 弥生コースで5～4合目の間に下山時、間違えやすい箇所が3～4か所あった。(齋藤)
- ・ 9/17 百沢コースを焼止から15分ほど先まで登山。近くに傾斜計が設置されていた。(藤原)
- ・ 9/19 岳コースを登る。鳥海山にも地震計の設置を確認した。(藤原)
- ・ 9/25 岳登山道ブナ帯にトマツ？巨木の森に向かう右側に白樺？またはダケカンバ(白っぽい)？50本程。いずれも葉が高く確認に至らず。(齋藤)

<10月>

- ・ 10/13 赤倉沢に行ったら、大注連縄が落ちていた。結び目がほどけたのかもしれない。(花田)
- ・ 10/18 双子沼に行った。道が荒れていて、乗用車ではムリ。キノコ採りがたくさん入っていた。(花田)

<11月>

<12月>

<1月>

- ・ 1/8～9 一泊で登頂してきた。入山ポストはポストの部分だけが見えており、入山届を投函。湯の沢分岐、巨木の森分岐の標柱は50cmほど頭を出していた。雪は少なかった。鳳鳴避難小屋の入口は凍り付いて開かず。ガラス戸なので、緊急時は壊して入ることは出来るだろう。10数人が登頂しており、多くがツボ足だった。(竹浪)
- ・ 1/21 百沢登山道をカンジキで姥石(668m)まで上がった。入山ポストは、スキー場の建物の屋根に覆われているので問題なし。道路からそこまで上がるのもそれほど苦労しなかった。入山届を投函。この時期も小雪でカラスの休み場、鼻コクリの標柱が30cmほど見えていた。スノーモービルが入った形跡はなかった。(竹浪)
- ・ 1/28 嶽登山道をツボ足で1000m付近の「ゲレンデ」まで上がった。入山ポストは雪の山に隠れてしまっており、入山届提出不能。また、登山者を考慮した除雪がされておらず、登山道にとりつくのには苦労する。最近の降雪で、湯の沢分岐、巨木の森分岐の標柱は隠れていた。その上方の右折誘導の標柱は40cmほど頭を出していた。(竹浪)
- ・ 1/5 砥上沢に入った。ホザキヤドリギを見に行っていたが、見当たらずなくなっていた。(竹谷)

<2月>

- ・ 弥生新道2～3合目にかけて歩いたが、岩木山の雪の締まりがないように思える。(齋藤)

2. 2016年度のまとめ

(1) 岩木山講座を観察会・シンポジウムを含め年6回、一般市民の参加のもと行う

- ① 係を決め写真の記録を残す
- ② 参加者の感想文を募る(依頼する)

残した写真、いただいた感想文は会報に掲載しました。

【まとめ】

年間を通じて5回の岩木山講座を開催しました。今年も去年に続き、岩木山近辺にこだわらず、岩木山を遠くから眺めることも含めて企画しました。講座を通じて、岩木山とその周辺の自然をともに考えあう機会を持つことができたように思います。講座を実施するにあたり、あらかじめ参加者の万が一を想定し、年間の団体保険に加入しました。

岩木山講座① 梵珠(又白山)観察会

日程 5/8(日) 9時30分～13時

集合 梵珠少年自然の家

参加者 19名

様子 ・風が強かったが、天気が良く楽しい観察会となった。岩木山の景色も良かった。
・自己紹介や講師紹介など、参加者同士の交流を意識的に実施すればなお良かった。

岩木山講座② 弥生スキー場跡地観察会(弘前市「弥生いこいの広場隣接地利活用に係る自然観察会」と兼)

日程 6/18(土)10時～12時

集合 弥生いこいの広場駐車場

参加者 30名、うち親子は5組。その他、ウォッチング青森からの参加者。市職員7名ほど参加。

様子 阿部東氏のリードで実施した。事前下見を2回行ったこともあり、急斜面の部分にはロープを張るなどして、安全に実施出来た。参加者は弥生の自然を満喫し、ニホンザリガニ、アリ、珍しい植物など様々な生物を観察することが出来た。

岩木山講座③岩木山嶽ゴマシジミ観察会

日程 8/27(土)10時～12時

集合 嶽農村公園駐車場

参加者 11名

様子 ・ゴマシジミはあまり飛ばなかった。県外からきて採集している人がいるようだ。
・幼虫がワレモコウを食べている状況や、アリの活動状況が観察できた。
・春に刈り払いした部分のワレモコウが成長していた。
・今後、採集者対策をどうするか。総会の中で決めてほしい。ゴマシジミは絶滅危惧種。青森県でも一年ごとに少なくなっている。ここは重要な場所だ。
・NHK が取材に来た。

岩木山講座④志賀坊の紅葉とキノコ汁

日程 10/16(日)10時～13時

集合 志賀坊駐車場

参加者 28名

様子 ・キノコ汁の鍋二つを完食した。
・観察会は、ドロの木の方から反時計回りで一周、2時間半くらいを要した。
・様々な実や花を観察できた。春にも見たいという声が出されていた。火や水の便が良い。春の花を考えてもいいのではないか。
・ガスコンロを忘れたので取りに戻った。火力が弱く時間がかかった。
・待ち合わせ場所の行き違いで、申し込んだ方の1人が参加できなかった。
・新加入が一人あった。

岩木山講座⑤岩木山の雪山観察会～平沢右岸尾根～

日程 3/19(日)9時～12時

集合 岩木運動公園駐車場

参加者 12名

様子 ・春の訪れを感じさせる晴天に恵まれた。
・雪上を歩きながら木の芽、野鳥、動物の足跡、様々な昆虫などの観察を楽しんだ。
・暖かさのために雪が緩み、足を取られて体力を使ったため、途中で引き返した参加者もいた。
・阿部幹事の指導で、ジョウザンミドリシジミの卵を発見できた。

(2) 岩木山写真展を例年のように行う

【まとめ】

岩木山のいろいろな姿を市民に紹介する機会の一つとして、今年もNHKギャラリーで開催しました。出展者、出展数、入場者ともに例年並みでしたが、厳冬期に行われる写真展ということで好評を得、この写真展のために出かけてきてくださる人がいることは、今後の励みになっています。写真展の主旨の一つに、会員同士の交流とということがありますので、多くの会員の皆さんがおいで下さることを願っています。今年も特設コーナーを設け、岩木山講座の様子を写真、文章で紹介して会をアピールしました。8名の方から差し入れをいただきました。ありがとうございました。

日程:2月5日(金)～7日(日)

会場: NHK 弘前ギャラリー

入場者数 236名(去年 248名) 1日目:37名(62名) 2日目112名(102名) 3日目87名(84名)

出展者数 20名 出展数66点(去年22名 出展数 69点)

(3) 弥生スキー場跡地を長いスタンスでの岩木山研究の拠点とする(観察と学習を市民と協力し行う)

【まとめ】

- ・6/14から7/8にかけて、今年も、当会が加入している弥生スキー場跡地を考える市民ネットワーク(以下、弥生ネット)が2011年から継続している、弥生跡地の毎木調査、動物調査、植物調査、野鳥調査を実施しました。毎年得られるデータは、弥生スキー場跡地の自然回復の状況を判断する上で貴重です。
- ・6/14に実施した植物調査では、ウォッチング青森の会員に協力いただき3名が参加、204種の植物をカウントしました。11年からの延確認種数は330種になります。
- ・6/18に毎木調査を実施し2名で計測。1年間で対象木30本の幹回りが平均2.1cm成長していることを確認しました。同日、生物動物調査も2名で実施しています。
- ・7/8、日本野鳥の会弘前支部会員に協力いただき、2名で野鳥調査を実施しました。観察された野鳥は24種。新たに観察された鳥は2種(トビ、オオルリ)でした。
- ・11/22に、秋の毎木調査を3名で実施しました。1年間の成長は2.2cmでした。
- ・11/19に、日本野鳥の会弘前支部会員に協力いただき、秋の野鳥調査を2名で実施しました。観察された野鳥は23種類。新たに観察された鳥はオオアカゲラです。野鳥調査は2013年から始め、この3年間で56種が観察されています。
- ・弥生スキー場跡地での観察会は2回実施しました。いずれも、弘前市が「親子で自然観察会 in 弥生いこいの広場隣接地(リゾート跡地)」として実施しているもので、弥生ネット、岩木山を考える会が全面的に協力しています。第1回は6/18に、岩木山講座②として実施しました(5ページに記載)。第2回目は、9/24に実施しました。参加者は家族3組6人を含む17人でした。ウォッチング青森代表小関氏のリードで実施。ウダイカンバの樹皮を実際に燃やしてみたり、ニホンザリガニやサンショウウオ、プラナリア、様々な植物を観察できました。子供たちはいろいろな体験ができたように思えます。2回の観察会を成功させるために、事前調査をそれぞれ1～2回実施しました。
- ・弥生スキー場跡地にブナの植樹をしたいとの話が持ち上がり、11/16に市とともに協議の場を持ちました。当会としては、この間の弥生跡地問題の経過を踏まえ、自然の回復を待ちながら市民の森づくりに協力してほしいと要請し、植樹は当面見合わせることになりました。
- ・3/22に、市民のつどい「弥生いこいの広場(周辺)の現状を知ろう」を開催し、関係者・市民33名が参加しました。弘前市が協力し、公園緑地課からいこいの広場の整備計画の報告が、みどりの協会から動物広場の現状について報告が、そして弥生ネットからスキー場跡地の現状についての報告がありました。その後グ

ループに分かれて意見交換をしました。40haという広大な面積を持つスキー場跡地は、弘前市が市民の税金6億円を投じて手に入れた場所です。今後、いこいの広場と併せて市民がどのように活用していくか、知恵を出し合う必要があります。

(4) 岩木山の自然調査を進める

① 市民参加の観察会や調査会を行い、結果を記録し残す

【まとめ】

- ・ 5回の岩木山講座の実施、弥生跡地の自然回復調査と2回の観察会、嶽農村公園付近の刈り払いとゴマシジミの観察会を行い繁殖状況の把握等を行いました。(各項目に記載)

② 弥生跡地の動植物調査をウォッチング青森と協力し行う

【まとめ】

- ・ 6ページ(3)に記載

③ 長平登山道の湿地調査を継続して行う

【まとめ】

- ・ 8月21日、鯉ヶ沢スキー場に 1名が集合し2名で実施しました。今年の調査では、湿地までの登山道の刈り払いがなされておらず、目的地への到達に苦労しました。湿地帯では、上の沼に押し寄せている土砂が止まり固まっていて歩けるほどでした。一帯にサワリンドウサワギキョウが広がっており、ミカヅキグサが発見されました。植物 1種(うち、今年新たに確認されたもの 1種)が確認されました。

④ 個人による調査への協力と援助

【まとめ】

- ・ 特にありませんでした。

⑤ 種名同定依頼の指導(植物・動物・昆虫)

【まとめ】

- ・ 6/23 岩木山頂でハエを採取(阿部、竹浪)

「ルリキンバエ」と同定しました。このハエは、北海道特有种とされており、1960年代に船を通じて青森県に侵入したものと推測されています。日本ではなじみが薄いようですが、ヨーロッパでは普通にいます。英国顕微鏡学会 150 年記念切手にもなっているそうです。(弘前大学福士襄、大阪大学志賀向子)

- ・ 9/20 弥生スキー場跡地下見(阿部他4名)。五倍子(フシ)、いわゆる「虫こぶ」を採取。

「オトコエシミフクレフシ」「サンカクツルハトックリフシ」と同定しました。いずれも、岩木山では初確認のものです。

(5) 岩木山の環境保全に寄与する

① 登山道整備に協力する

【まとめ】

(ア) 嶽登山道の整備

8月3日嶽登山道現地確認会を実施しました。総勢16人、当会から竹谷、花田、齋藤、竹浪が参加しました。8合目までマイクロバスで登り、岩木山パトロールの今氏の案内で登山道を下山しながら、道に大きな段差がある場所3か所、刈り払いが必要な場所、標柱の修復2か所等を確認しました(標柱修復1か所は当会が指摘した場所)。同行した業者から見積もりを取り、工事に着手することになりました。

その後弘前市より、刈り払い、道の修復、標柱の修理等が実施されたとの報告がありました。

(イ) 岩木山弥生登山道の整備

4月に開催された岩木山環境保全協議会の場で、津軽百年の森(代表:根深誠氏)より、8月11日の山

の日に向けて、岩木山の登山道を安全かつ快適に利用できるように、嶽・百沢・弥生登山道の整備を実施したいとの表明があり、協議会としても協力していくことになりました。

当会でも、地元住民の合意協力を前提として協力することを決め、竹谷幹事、齋藤幹事が刈り払い等に参加しました。

8/11山の日に弥生登山新道の開通式が行われました。当会幹事会からも3名が参加しました。

新道は、弥生いこいの広場をスタート地点に旧道の3合目付近に合流します。

② 登山道等の整備を関係機関に働きかける

【まとめ】

今年も、4月に開催された岩木山環境保全協議会総会の中で、登山道整備をはじめとした岩木山の保全・整備等に関して意見を述べました。提出した意見に対する直接的な回答はありませんでしたが、その後、入山ポストが嶽、百沢、弥生の各登山道に設置されたり、鳳鳴避難小屋の入口の隙間が改修されるなどの進展がありました。協議会の総会は4/13に岩木中央公民館で開催され、小堀会長代行、竹谷幹事、竹浪事務局の3名が出席しました。環境保全協議会はその後、7/22に1122、11/16と2回の情報交換会が開催されるなど、比較的活発に活動が行われました。

以下、総会に提案した当会の意見とそれに対するこれまでの対応について記載します。

(ア) 赤倉登山道26番観音付近の登山道崩落危険回避の件

2014/7/31に当会が26番観音付近赤倉登山道のすぐそばの急斜面が大崩落していることを確認して以来、崩落が徐々に進行しています。今年4/2に付近を確認してきましたが、登山道までの崩落はまだないようです。しかし、今後崩落の危険性がますます高まると考えられます。

雪解けが進みこの登山道に入る登山者も出てくると思いますので、その前に調査を行い、危険性を判断し、必要があればテープを回すなどの措置を施したうえで、登山を認めるなど、慎重な対策が必要ではないでしょうか。(調査を終えるまでは登山禁止措置なども考慮したらどうでしょう。)

(現況)

11/16の情報交換会の中で、う回路を作る方向で議論がなされました。今後、春の雪解けが進んだ時点で改めて現場を確認し、判断していくことになると思われます。

(イ) 焼止、鳳鳴小屋整備の件

2015年度予算で避難小屋が整備されたことはうれしく思います。ただ、整備の内容の一部についてどのような専門的見地が取り入れられたのかはなほ疑問なので、改めて問題を指摘します。岩木山を青森県・弘前市の観光資源として考えているのであれば、県外からの登山者が見ても恥ずかしくないような整備をすべきではないでしょうか。

①鳳鳴避難小屋については、入口の引き戸が改修されました。しかし、引き戸の材質等の仕様が平地住宅用のアルミサッシで、鳳鳴小屋のような高山での使用に耐えるものではありません。再度、改修計画を立て直すように要望します。その際、山岳会などからの専門的な知見を十分取り入れてください。

(ア) 厳冬期は建物全体が氷結しているので、引き戸を開けるためには両手で力を入れることができるような大型の取っ手が必要。引いても開かなければピッケル等でこじ開けることになる。現在の引き戸は取っ手が小さく力が入らず、2016/1/30に訪れた際にはピッケルを隙間に差し込んで開けた。アルミも薄いので何回かやるとサッシが歪むと思う。

(イ) 普通のサッシなので隙間ができる。そこから雪が入り込み、中は雪の吹き溜まりだった。雪が入り込まないようなもつとがっしりした仕様の引き戸でなければならない。

②焼止避難小屋については、軒や外壁、備え付けのベンチなどの内装の修繕が行われました。ありがとうございました。しかし、厳冬期に利用することが頻繁な2階入り口のコンクリート庇が折れたままに

なっているのは困ります。厳冬期は、1階入口が完全に雪の下になるため、軒を足場にして2階入口から入り込むこととなりますが、今年のような積雪が少ない年は特に軒までの距離が遠いと手がかりもなく、入るのが非常に困難でした。直接、入口の枠に手をかけて中に入るのは、中を見ると2階の高い部分に入口があるので、非常に怖い。折れた軒の部分は、人が入るための手がかりとなるだけでなくザックなどの大型荷物を載せる場所にもなるので、ここが折れているのは極めて不便です。

(ア) コンクリートの庇の修繕をお願いします。できればもう少し幅があれば使いやすと思います。

軒の裏側にスコップを取り付けられるようにしておけば重宝します。

(イ) 小雪の時に庇に上られるように、横に鉄の梯子を取り付けていただけないでしょうか。梯子は下まで届いている必要はありません。

③鳳鳴、焼止両方に言えることですが、避難小屋が登山道修復等のための物置を兼ねているような状況があります。修理の部材などは小屋の裏などに保管するようにして、避難小屋を快適な空間にすることも今の時代には必要なことではないかと考えます。

(現況)

鳳鳴避難小屋の入口問題については、ドアの内側に吹き込みを防止する棧が取り付けられました。ドア自体が華奢な作りなので、大型の取っ手をつけることなどは無理だと思われます。協議会の場でそのことを指摘したところ、冬は無理して開けないでほしい旨の意見が出されました。冬でも安心して使えるような避難小屋にするためには、もっと抜本的な入口対策が必要だと思われます。

焼止避難小屋の方は、今年は雪が多く、屋根まで完全に埋まり、全く出入りできる状態にありませんでした。

(ウ) 岩木山体への地震計、傾斜計観測施設の設置の件

昨年10月、御嶽山噴火に伴う岩木山の危険予防措置について、当会として気象庁青森地方気象台火山防災官と話し合う機会がありました。鳥海山先端に広域地震計、百沢焼止小屋の横にある平らな部分に傾斜計を設置したいとのことでした。当会としては、観測機器の設置自体は必要な措置であり、反対するものではありませんが、鳥海山先端のハイマツ等の伐採には反対で、現在裸地になっている部分に設置すべきと提言しました。傾斜計設置予定場所は、以前底雪崩があり小屋が崩壊した場所であることを指摘し、現在の避難小屋の付近への設置を提言しました。その後、地震計、傾斜計はまだ設置されていないようです。今年度実施されるものと思われます。経過と考え方を共有しておきたいと思います。

(現況)

2016年9月から10月にかけて計器が設置されました。当会が述べた意見がどの程度反映されたか、現地を確認する機会をまだ持っていません。気象庁には、設置場所をどのようにするか、判断結果について連絡をくださいと述べたのですが、その後何の連絡もありませんでした。

(エ) 入山ポスト設置の件

入山ポストの設置については、去年の総会で当会から提案し、関係機関と相談したとの回答をいただいております。その後の検討状況をお知らせください。

昨年当会の提案のポスト設置場所案について、一部変更提案しますので改めてご検討ください。

<弥生登山道> 弥生いこいの広場ハイランドハウス付近(弥生登山道入口を当該広場へと変更する新たなルートが検討されていることに鑑み。)

(現況)

当会の要望が受け入れられ、ポストが設置されました。設置場所は嶽登山道(嶽駐車場入り口鳥居付近)、百沢登山道(百沢スキー場グレンデハウス横)、弥生登山道(いこいの広場ハイランドハウス横)の3か所です。会報でも報告したように立派なポストです。届出用紙の回収は地元の警察が行って

くれることになりました。今後利用促進の働きかけが必要です。また、赤倉、長平の各登山道への設置をどうするか検討も必要です。

但し、嶽登山道では、今冬季の積雪で登山ポストが雪の中に埋まってしまい、投函できない状況がありました。今後、対策を検討することが必要です。

(オ) 岩木山頂トイレのハエ対策と殺虫剤の件

2015年夏に、当会会員より岩木山頂トイレにハエがびっしりついているとの知らせがあったため、ハエの動向に留意してきました。この問題では、先日行われた当会総会でも、出席した会員より、県外の旅行者から山頂トイレにハエがいるのはいかななものか、との注意があったとの発言もありました。なぜハエが発生するようになったのかということが総会で議論になりました。

その結果次のような見解を持ちましたのでご検討・ご理解ください。

<状況判断>

(ア) 「頂上効果」と言って、一般的に高いところに虫が集まる傾向がある。併せて登山者が出すゴミに寄って来る。ハエの増殖は汚物が原因と考えられる。

(イ) 新しいトイレはバイオにより汚物を分解しようとするものだが、標高が高く気温が低いために微生物による分解が追い付かないのではないかと考えられる。(分解速度が排泄量に追い付いていない。)

<対策>

(ア) 汚物の量を減らすこと。下のトイレで事前に済ませ、頂上トイレの利用はできるだけ避けるようにするよう啓発活動を行う。

(イ) 携帯トイレを推奨する。使える場所を確保することが必要。

(ウ) 攪拌回数を増やし、汚物を早めに下ろす。

<留意事項>

薬剤の設置や散布は、頂上付近にいる昆虫にダメージを与え、昆虫と共生している植物にも結果的にダメージを与えることにつながり、岩木山の脆弱な生態系維持にとって非常にリスクが大きいののでやめてほしい。

(現況)

6/23に岩木山頂のハエの調査をした際に採取したハエは、ルリキンバエと同定。これはトイレに発生するものです。岩木山頂のトイレがハエの発生源になっていることが明らかになりました。山頂の環境を守るためにも、今後の対策が望まれます。

昨年見られた殺虫剤様のものは見られなくなりました。

(カ) スノーモービルの件

スノーモービルによる特別保護区域への侵入(違法走行)が今年も見られています。県外からも来ているようです。対策を強化すべきと考えますがいかがでしょうか。

(現況)

県自然保護課がスノーモービルの乗り入れ規制の張り紙をしているようですが、鱒ヶ沢スキー場で1枚確認できただけで、あまり目立っていません。宣伝の仕方を工夫することが必要ではないでしょうか。

③ 岩木山に関する情報を市民に伝える

【まとめ】

(ア) 弥生いこいの広場の整備について

- ・ 弘前市は、弥生いこいの広場の中の動物広場や、ハイランドハウスの老朽化に伴い、これらを再整備する計画を2016年3月、「弘前市弥生いこいの広場再整備基本計画報告書」にまとめました。しかし、この内容は、これを実施するための予算的裏付けがとれない、と言う理由で公表されてきませんでした。

た。

- ・ 弥生ネットと岩木山を考える会は、この問題について市民のオープンな議論が必要ではないかと考え、市に対してそのような機会を持つことを提案してきました。
- ・ 12/20、市公園緑地課と話し合いを持ち、弥生ネットが弥生いこいの広場の現状と今後の方向性を話し合う市民集会を実施することについて、市も協力する旨の合意を得ました。
- ・ 3月22日、弘前市観光館多目的ホールで、弥生ネット主催の「市民のつどい：弥生いこいの広場の(周辺)の現状を知ろう」が開催されました。つどいには、市民 名が参加。弘前市公園緑地課、弘前市みどりの協会、弥生ネットが報告をし、その後意見交換をしました。

(イ) 岩木山で厳冬期にバックカントリースキーを実施する計画

- ・ 11/11岩木山バックカントリースキー企画の件で当会に相談があり、参画センターで関係者から説明を聞きました。計画概要は次のようなものでした。

実施時期2～3月、雪上車使用、岩木スカイライン上を走行8合目まで

人員：14～15名(客12名、ガイド2名、(パトロール・カメラマン1名)) 一日2～4回の貸し切り

滑走ルートは嶽A、Bコース、8合目から上は歩いて登り、弥生等へ降りることも企画。

- ・ 11/16岩木山CATツアー説明会が観光館で開催され、弘前市、弘前コンベンション協会をはじめ、岩木山に関わる団体が参加しました。当会からも小堀、竹浪が参加し、危険性に対する対策、雪上車の走行ルートの厳守、悪天候の際のツアールートの明示等を求めました。
- ・ その後、市に問い合わせたところ、事業計画は取りやめになったとのことでした。

(ウ) 岩木山嶽地域地熱資源開発調査事業について

- ・ 12/18、嶽さわやかホールで、標記事業説明会が開催され、当会からも3名が参加しました。嶽地域における地熱資源開発事業は、2012年から始まり、この間嶽の岩木さんぼ館隣を試掘の場所と定め、掘削をしていたのですが、結果的に事業に使うだけの熱を探り当てることができないという経過がありました。
- ・ 今回の提案は、以前候補地として検討した3か所のうち、1か所は失敗したが、残りの2か所のうち精査の結果、熱源にあたる可能性が強いと判断したので実施したい、というものでした。
- ・ 当会からは、この間の経緯からは熱源にあたるかどうか疑わしいこと。計画ありきの事業で、地域の要望に即した事業になっていないのではないかと、などの指摘をしました。
- ・ 地元では、この事業に反対している温泉組合もあるようです。
- ・ 国の補助事業で市の負担は少ないとはいえ、総事業費は20億を超えます。今後、試験掘削が行われることとなりますが、事業が地域住民の要望に沿ったものになっていくのか、環境被害が出ないかどうか、など注視していく必要があります。

④ ミズバショウ沼のススキの刈り払いをし、ゴマシジミの保護を進める

【まとめ】

6/23、幹事4人が農村公園駐車場に集合し、ススキの刈り払いを実施しました。刈り払いによってワレモコウの繁殖が助けられます。カマと草刈機1台使用し、2時間ほどかかって、付近一帯のススキと大きなバラ株の山を伐採しました。

ゴマシジミは青森県内ではほとんど繁殖を確認できなくなっています。県内でも数少ないこの場所をしっかり管理し、ゴマシジミの繁殖につなげていきたいものです。

ところが、最近県外からこの情報を聞きつけ、数十匹単位で捕獲している人がいることが判明しました。今後、どのように保護をしていったらいいか、知恵を出し合う必要があります。

⑤ その他の活動

【まとめ】

(ア) 岩木山周辺の清掃活動の取り組み

- ・7/10、岩木山観光協会主催エコプロジェクトが実施され、当会から2名が参加しました。全体で60名ほどの参加がありました。主要道路沿いのゴミ拾いと、不法投棄されている場所からのゴミの撤去を実施し、4トントラックが満杯になりました。
- ・10/9、第2回エコプロジェクトが実施され、2名が参加しました。50名ほどが3班に分かれて、道路沿いのゴミ拾いをしました。

(イ) 岩木山登山マップ改定への協力

弥生登山道新道の開通などもあったため、弘前市より、岩木山登山マップの改訂に向けた協力要請がありました。分かり易く正確な登山マップ作りに向けて協力をしています。

(6) 東北自然保護の集い山形大会へ参加する

【まとめ】

今年の第37回東北自然保護のつどいは、10/22～23日に山形県庄内町、月山山麓の月の沢温泉で開催されました。当会からは阿部、齋藤両幹事が参加しました。参加者は60名ほどで、青森県からは3名の参加でした。

今回のテーマは「野生動物の保護」「自然再生エネルギー政策の現状と課題」でした。それぞれのテーマごとに講演と現地報告、質疑が行われ、続いて、特別報告・提案として、「白神山地(秋田県側)核心部入山禁止の解除(届出制へ移行)について」の意見提起、汚染土壌の仮置き場問題について福島からの報告。さらには各県より、ダム問題、指定廃棄物(放射能)処分場等の報告、最後に大会アピール採択が行われました。

当会からは阿部幹事が、「県内再生エネルギーの現状」「岩木山東北部山麓動物轢死の記録」について報告しました。

白神への入山について、秋田側も青森側と同様禁止を解除し規制に変更する方向で調整が進められています。

(7) 会報を年3回発行する。(4月、9月、12月)

【まとめ】

- ・今年も藤原幹事が編集長となり、紙面企画と原稿の割り振りを行いました。予定通り、4月27日、9月25日、12月21日の三回発行することができました。執筆依頼を幹事だけでなく、観察会参加者にも個別にお願いしました。小倉幹事が入力・レイアウトを担当しています。
- ・会報の印刷発送作業は、毎回幹事が参画センターに集まり、みんなで行っていきます。
- ・会報の発送先を見直すことにしました。会員はもちろんですが、関連個人・団体については、下記の基準に従って発送することにしました。

ア) 岩木山の環境保護にかかわっている団体⇒岩木山環境保全協議会会員団体

イ) 県内のマスコミ各社

ウ) 県内・市内の主な自然保護団体

エ) 日本の主な自然保護団体⇒(公財)日本自然保護協会保護研究部 (公財)日本野鳥の会自然保護室

オ) 県内の岩木山にかかわる研究者で特に必要と思われる方

カ) 会報をいただいている自然保護団体

キ) その他

(8) 幹事会を月1回行う(会員の参加自由)

【まとめ】

毎月第1火曜日という幹事会の定例化が確立しており、4月から毎月、合計12回の幹事会が開催されました。議長は毎回幹事が交代で行っています。出席者と欠席者が固定化している傾向があります。会員の自由参加はありませんでした。

(9)ホームページ「岩木山を考える会」を継続する。

【まとめ】

ホームページの更新を再開しました。主に会報のアップですが、必要な情報をその都度更新しています。ぜひ、ホームページをご覧ください。フェイスブックでは、行事の紹介などを中心に行っています。

ホームページ <http://www.iwakisan.jp/>

フェイスブックは、フェイスブックサイトから検索で見られます。

平成28年(2016年)度 収支決算報告書

会計年度：平成28年4月1日～平成29年3月31日

収入の部

(単位:円)

科 目	予 算	決 算	差 引 増 減	備 考
前年度繰越金	799,752	799,752	0	28年度会費 ¥30,000 29年度以降 ¥41,000
会 費	102,000	103,000	1,000	28年度会費 ¥77,000 29年度以降 ¥26,000
寄 付 金	0	46,200	46,200	10件 ¥39,200 27年度分以前の会費 ¥7,000 (4件)
利 子	50	68	18	
雑 収 入	0	21,500	21,500	5/8, 8/27, 10/16, 3/19岩木山講座参加費
	901,802	970,520	68,718	

支出の部

(単位:円)

科 目	予 算	決 算	差 引 増 減	備 考
会 議 費	10,000	5,200	4,800	総会及び幹事会会場費
事 務 費	20,000	4,635	15,365	資料コピー代 他
会 報 費	50,000	58,117	△ 8,117	3回印刷・用紙・封筒・送料
郵 送 費	20,000	13,464	6,536	ハガキ代・総会通知 (126通)
シンポジウム	30,000	18,695	11,305	岩木山講座保険料・経費
写 真 展	20,000	12,232	7,768	会場費・資料作成費 (インク代含む) 他
調 査 費	20,000	7,600	12,400	ガソリン代
予 備 費	731,802	25,409	706,393	東北自然保護の集い参加補助・献花
支 出 合 計	901,802	145,352	756,450	

差引収支 $970,520 - 145,352 = 825,168$

監査報告

監査の結果、適正に処理されていることを認めます。

平成 29年 4月 1日

監事 土岐 修平

監事 佐藤 文猛



第3号議案 2017年度活動方針

- (1) 岩木山講座・観察会を一般市民の参加のもと行う
 - ①係を決め写真の記録を残す
 - ②参加者の感想文も係が依頼する
 - ③座学講座を検討する
- (2) 写真展「私の岩木山」を例年のように行う
2018年 2月9日(金)～11日(日) 於、NHKギャラリー
- (3) 弥生スキー場跡地の観察と学習を市民と協力し行い、長いスタンスでの岩木山研究の拠点とする。
- (4) 岩木山の自然調査を進める
 - ① 観察会や調査会を市民とともにに行い、結果を記録に残す
 - ② 弥生跡地の生物調査をウォッチング青森と協力し行う
 - ③ 長平登山道の湿地調査を継続して行う
 - ④ 種名同定依頼の指導(植物・動物・昆虫)
 - ⑤ 会員による貴重な調査記録等を整理し次世代に伝える
- (5) 岩木山の環境保全に寄与する
 - ① 登山道等の整備を関係機関に働きかける
 - ② 岩木山に関する情報を会員、岩木山バトロールと協力しながら市民に伝える
 - ③ ミズバショウ沼のススキの刈り払いを行い、ゴマンジミの保護を進める
- (6) 東北自然保護の集い秋田大会へ参加する
- (7) 会報を年3回発行する(4月・9月・12月)
- (8) 幹事会を月1回行う(会員の参加自由)
- (9) ホームページ「岩木山を考える会」を継続する

※ 具体的な日程

4月30日(日) 第1回岩木山講座 志賀坊公園 10時現地集合
ウォッチング青森と共催

7月2日(日) 第2回岩木山講座 弥生スキー場跡地観察会 10時現地集合
弘前市主催観察会と合同

第5号議案 役員体制

会 長 小堀 英憲
副会長 竹谷 清光
事務局 竹浪 純(事務局長) 葛西 拓美(庶務) 武尾 照子(会計)
幹 事 阿部 東 飛鳥 和弘 工藤 龍雄 齋藤 真人 藤原裕貴子 小倉 慎吾
監 事 土岐 修平 佐藤 文猛

第4号議案

平成29年(2017年)度 予算

会計年度 : 平成29年4月1日～平成30年3月31日

収入の部

(単位:円)

科 目	決 算	予 算	備 考
前年度繰越金	799,752	825,168	29年度会費 ¥32,000 30年度以降 ¥35,000
会 費	103,000	72,000	29年度会費納入予定額
寄 付 金	46,200	0	
利 子	68	5	
雑 収 入	21,500	20,000	岩木山講座参加費
	970,520	917,173	

支出の部

(単位:円)

科 目	決 算	予 算	備 考
会 議 費	5,200	10,000	総会及び幹事会会場費
事 務 費	4,635	20,000	弥生ネット年度会費・資料コピー代 他
会 報 費	58,117	70,000	3回分印刷費・用紙・封筒・送料
郵 送 費	13,464	20,000	はがき代・総会通知
シンポジウム	18,695	30,000	資料作成費・岩木山講座保険料および経費
写 真 展	12,232	20,000	会場費・資料作成費
調 査 費	7,600	20,000	ガソリン代
予 備 費	25,409	727,173	東北自然保護の集い参加補助
支 出 合 計	145,352	917,173	